
機動戦士ガンダムOO 世界を変えるガンダム

剣聖龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動戦士ガンダム〇〇 世界を変えるガンダム

【Zコード】

Z0079Z

【作者名】

剣聖龍

【あらすじ】

毎日を退屈に過ごしている木崎魁、新垣健人、西村真由、三藤拓真の4人はある日、4つのペンダントを拾う。

その瞬間、ガンダム〇〇の母艦、プトレマイオス2改に飛ばされ、艦長のスメラギから『ガンダムマイスターになつてくれないかしら?』と、衝撃の言葉を聞く4人。

これは、ガンダムマイスターとなつた少年達が、世界を救つ為に世界を変える物語である。

第一話 謎のペナント(前書き)

新作です。ではじめ。

第1話 謎のペンダント

「ナレーションHIDE」

「…つまんねえ」

木の日陰で寝ている少年が咳く。

「あー、いたいた、魁！」

「ん？ ああ、真由か」

ポニーテールの真由と呼ばれた女子が魁と呼ばれた少年に近寄る。

「また昼寝してるの？」

「まあね。高校つまんないし。真由も同じだろ？」

「まあ、わうだけじ…」

真由はやつて寝ている魁の横に座る。

「やつぱり、剣道には入らないの？」

「ああ。なんかもう、昔みたいに面白くないんだよ。真由こそ、サバゲーの方は全然やって無いじゃないか」

ちなみにサバゲーとはサバイバルゲームの略である。

「私も魁と同じしかな…なんかつまらないの」

「て言つた授業も退屈だし。分かる事を最初からやるとかマジで辛い」

「それは健人と拓真も言つてたね。私もだけど

「だろ?」

そう言つて魁と真由は一度目を合わせ、深々と溜め息を吐いた。
その後、昼休みの終わりを告げるチャイムを聞いた2人はそれぞれの教室、魁は1年4組に、真由は1年3組に戻つていった。

(放課後)

授業が終わり、魁と真由は生徒玄関に来ていた。

「よお、魁、真由」

不意に声を掛けられた2人は後ろを向くと、2人の男子が立つていた。

「健人、それに拓真か」

「どうしたんだい? 2人揃つて暗い顔をして」

拓真と呼ばれたメガネを掛けた知的な雰囲気の男子が問い合わせる。

「毎度の事。授業が凄くつまんなかったの」

「そりや言えてるな」

今度は健人と呼ばれた茶髪の飄々とした男子が言う。魁、健人、真由、拓真。

この4人はクラスは違うが小学校からの幼馴染みである。（健人は5組、拓真是1組）

実は4人とも種類は違うがかなりの実力者で、中学3年の時に魁は剣道、健人はクレー射撃、真由はサバイバルゲーム、拓真是ECCの全国大会で優勝している実績を持つ。

更に周りには隠しているが、勉強に関しても4人は既に東大の卒業生並に頭が良い。（何故かは分からぬ）だが、この4人には悲しい共通点もある。

それは4人とも親が居ない事だ。

4人がまだ小さい頃に起こったとある橋の崩落事故。それに4人の親は運悪く巻き込まれてしまい、この世を去った。

それから身寄りも無い4人は施設に入り、中学、そして今（高校）は寮に入っている。

それ以外にも悲しくはないが共通点があつた。

4人ともガンダムが好きな事だ。

特に好きなのは4人とも『ガンダムOO』。

そんな共通点もあり、4人は仲良くなつたという訳だ。

「ん？ なんだ？」

下駄箱を開けた魁が中にある何かを見つけ、引っ張り出した。

それは青い宝石のようなペンダントだった。

「なんだこりや？」

「あれ？僕の下駄箱にも何かある」

「俺もだ」

「私も」

そう言つて健人、真由、拓真の3人も下駄箱から何かを引っ張り出

す。
健人は緑色、真由はオレンジ色、拓真は紫色の宝石のようなペンダ

ントだった。

「なんだろう、これ？」

「宝石…じゃないよな」

「誰かの落とし物でしょつか？」

「さあ…一体なんなんだ？」

4人はそれぞれのペンダントをまじまじと見つめる。その時、4つのペンダントが青白い閃光を放ち、次の瞬間、4人は玄関から消えていた。

（？？？）

「うへん…」

魁が目を覚まし、周りを見渡す。すると、倒れている健人、真由、拓真を発見した。魁は倒れている3人に近寄り、揺する。すると3人は目を覚ました。

「魁…？」

「良かつた。目が覚めたんだな」

「こじこじは何処でしようか？」

「学校じゃねえよな」

立ち上がり、魁達は周りを見渡す。

床、壁、天井が白一色で壁と床にはモニターが埋め込まれている。4人はその光景を知っていた。

「おい、こじこじ…」

「もしかすると…」

「夢じやありません、こじこじ…」

『『ガンダムOO』のプラレマイオス改のブリーフィングルーム！？』

『『ガンダムOO』のプラレマイオス改のブリーフィングルーム！？』

4人は同時に叫ぶ。

その時、ブリーフィングルームのドアが開く音がし、その方向には4人の知る人物達が立っていた。

「あ、貴女は！ソレスタイルビーアイングの戦術予報士、スマラギ・李・ノリエガさん！？」

「ええ、そうよ」

「それにオペレーターのフェルト・グレイスにミレイナ・ヴァースティイ！」？

「操舵士のラッセ・アイオンさんも！？」

「ついでにイアン・ヴァースティイとリンダ・ヴァースティイも居る！？」

「ついでってなんだ、ついでって！」

怒るイアンをリンダが宥め、スマラギが口を開いた。

「まず知ってると思うけど、私が戦術予報士のスマラギ・李・ノリエガ。木崎魁君、新垣健人君、西村真由さん、三藤拓真君、ソレスタルビーアイング（以下CB）によつてな」

「CB…じゃあこいつは…」

「貴方達の言う通り、ブトレマイオス改のブリーフィングルームです。私はフェルト・グレイス、オペレーターをやっています」

「同じく、ミレイナ・ヴァースティイです！」

フェルトが応え簡単に自己紹介すると、ミレイナも自己紹介した。

「俺はプロレマイオス2改の操舵士のラッセ・アイオンだ」

「儂はイアン・ヴァステイ。整備士をやつている」

「私はリンダ・ヴァステイ、イアンの妻よ」

「僕は木崎魁です」

「俺は新垣健人だ」

「西村真由です」

「二藤拓真と言います」

C B のメンバ一の自己紹介に続き、魁達も自己紹介をする。一通り自己紹介が済むと、再びスメラギが口を開いた。

「単刀直入に言うわ。貴方達4人にガンダムマイスターになつて欲しいの」

『...え?』

4人は思わず耳を疑つた。

絶叫する4人。

「どういう事ですか！？ガンダムマイスターは刹那さん達じゃないですか！？」

「まだ言つてなかつたわね。私達はCBだけど、“本物のCBじゃない”

「どういう事ですか？」

「私達はガンダム〇〇のCBを元にして生まれたCB。私達の目的は様々な世界の監視、及びバグ世界になりかけの世界への武力介入よ」

「様々な世界の監視？」

「バグ世界？」

聞き慣れない単語に、4人は首を傾げる。

「一言に“世界”と言つても色んな世界、幾つものパラレルワールドが存在する。当然中には存在し続ける世界もあれば消滅する世界もある。でも消滅する筈の世界に突然“バグ”と言つものが発生し、他の世界に影響を与える“バグ世界”と呼ばれるものになってしまつ。そうなつたらその世界は破壊するしか無くなるわ

『…………』

「でもバグが発生したからと言つて、必ずしもその世界を破壊しなければいけない訳じゃない。バグが侵食し切る前に世界を変えればバグは変革に耐えきれず、破壊されるわ。そして私達のCBのガン

ダムマイスターの使命は世界を変える為に闘つて貰う事よ。でもい
くら私達〇〇から生まれたからといって、流石に向こうのガンダム
マイスターまではそのまま連れてこれず、私達は別の世界からマ
イスターを集める事にした。そしてそれに選ばれたのが…

「僕達、と言つて貰う事ですね？」

スマラギの言葉を魁が続けた。

「やう言つ事。で、やつてくれるかしら？」

スマラギが問い合わせると、魁達は黙り込んでしまう。

「あの…世界を変えるって事は、やっぱり、人を殺すんですか？」

真由が質問する。

「…ええ、そうよ。そのせいで今までガンダムマイスターの候補だ
った者達は次々と降りていったわ」

当然である。誰だつて人を殺したくない。

しかも、CBはテロリストとも取れるため、言い方を変えれば“テ
ロリストになれ”と言われているのと同じだ。

沈黙する4人。だが、突如それを破つた者が現れた。

「僕、やります！」

そつ言つたのは魁だ。

「魁！？」

「理由を聞かせてくれるかしら？」

「…僕は向こうの世界で剣道で優勝してから殆どの事がつまらなくなりました。でも、〇〇を見て、自分も世界を変えてみたい、ガンダムの力を信じてみたいと思つたんです。だから、お願ひします！」

「…分かつたわ。木崎魁君、貴方をCBのガンダムマイスターとします」

「はい！」

「お前達はどうするんだ？」

依然、黙り込んでいる3人にラッセが問い合わせる。

「…俺もやる。俺も魁と同じで、世界を変えてみたい！」

「私も！魁だけには任せること出来ません！」

「僕も、ガンダムを信じてみたいです！」

「…良いのね？後戻りは出来ないわよ」

「覚悟の上です」

4人を代表して、魁が応える。

「分かったわ。貴方達4人をCBのガンダムマイスターとします。でも色々と準備もあるでしょうから今日はこれまで。明日の午後7

時30分に貴方達の学校の屋上にそれぞれペンダントを持って来て
頂戴

『はい！』

（次の日）

一晩たつた今日、魁達は朝から自室にてそれぞれ準備をしていた。
リュックやカバンに荷物を積めていた。

（魁自室）

「よし、これで最後だ」

リュックに荷物を入れ終わり、魁はチャックを閉める。
最後に青いペンダントを首に掛けた。

「後は…時間まで待つ位しかないか」

そう呟く魁。 その他の3人も時間まで自室で過ごしたのだった。

（夜、7時30分）

学校の屋上には魁達4人が居た。

彼等は既に決心している。ガンダムマイスターとして闘う事を。
そしてそれが首に掛けているペンダントが青白い輝きを放った。

「…行こう、皆」

「ああ」

「うん」

「分かってますよ」

そして4人はその世界から消えた。

第一話 謎のペントアント（後書き）

感想等お待ちしております。

第2話 模擬戦

「ナレーションSHIDE」

前回同様、プトレマイオス改のブリーフィングルームに現れた魁達。

そこにはCBのメンバーともう一人、前回は居なかつたメンバーが居た。

魁

「ええ!? 貴女は、アニュー・リターナーさんでは! ?」

アニュー

「正解。私はアニュー・リターナー。よろしくね」

真由

「どうして! ? アニューさんは死んだ筈じゃ…」

スマラギ

「アニューは余りにも働きが良いからね。肉体を与えて復活したの。言い忘れてたけどこの艦にはヴェーダも搭載されているから」

4人

『ええええええええええ! ?』

ミレイナ

「更に、ヴェーダの中には敵味方問わずCBのメンバー、更にイオリア・シュヘンベルグの意識データも保管されているです! 」

4人

『ええええええええええええええええええ！？』

驚愕の絶叫がブリーフィングルームの空気を震わせた。とりあえず、4人が落ち着いた所で話は再開される。

「とりあえず、今から壁に沿ってランニングの訓練をして貰うわ。ついて来て」

4人はスメラギ達の後についていた。

シミュレー・ショ・ルームへ
シミュレー・ショ・ルームに到着し、フェルト、ミレイナ、リンダは
シミュレー・ショ・ン・プログラムを起動させる。
魁達4人はスマラギに言われ、シミュレーターにペンダントをセッ
トした。

スメラギ

『嘘、これからハラクーションを始めるわね。おや田を開じて』

言われるがまま、4人は目を閉じる。

スメラギ

「フェルト」

フェルト

「シニコレーター、起動します」

フェルトがキー ボードを操作し、シミュレーターを起動させた。

そして4人の意識に直接、夥しい情報が流れ込んで来る。

それが数秒間続いた。

スメラギ

『目を開けて良いわよ』

そう言われた4人は目を開ける。

その視線に飛び込んできたのは、衝撃だった。

『ナレーションSIDE OUT』

『魁SIDE』

僕はスメラギさんに言われた通り、目を開けた。

すると、僕の目には何処かの空港のような景色が広がっていた。
そこは知っている。

ガンダムOOOファーストシーズン第1話でエクシアが武力介入を行つたAEUの訓練場だ。

更に、僕は自分自身の姿を見て驚きを隠せなかつた。青と白のボディ。

左腕に装着している青と白の鋭い盾。

肩の後ろと腰の後ろとから伸びている計四本の白い棒のような物体。両腰にマウンドされている左右で長さの違う剣。

そして右手に持つている小型の盾が装着され、銀色に輝く刀身が折り畳まれた武器。

見間違う筈もない。

それは僕の好きなガンダムの一機、『ガンダムエクシア』だ。

魁

「これは…エクシア?」

まじまじと全身を見る僕。その時、僕の目の前に3つのモニターが展開された。

健人

『魁！…どうなつてんだこりや！？なんか俺、デュナメスになつてるぞ！？』

真由

『私はキュリオスになつてるんだけど…なんでも？』

拓真

『僕も気付いたらヴァーチュになつていきましたけど…』

モニターには健人の声がするデュナメス、真由の声がするキュリオス、拓真の声がするヴァーチュが映っている。

スメラギ

『どうかしら皆？ガンダムになつた気分は？』

魁

「ガンダムになつた？それってどういいう事ですか！？」

スメラギ

『貴方達が拾つたペンドント。あれはガンダムなの』

健人

『あのペンドントが…？』

モニター越しに健人の声が響く。

スメラギ

『今、貴方達の意識と体はGN粒子となつてガンダムと一体化しているわ。思い通りに動く筈だから少し動いてみて』

その言葉通り、エクシアとなつた僕は空中を動いてみた。
エクシアになつても、元の体と同様に違和感無く動く事が出来た。

スメラギ

『もう十分かしら？じゃあ、今度は戦闘に入つて貰うわよ』

“戦闘”という単語に一瞬ドキリとし僕は動きを止める。
すると、何処からともなく、大量のMSが出現した。

くすんだ緑色と明るい青緑の2タイプ。

それは〇〇の二国家の1つ、『AEU』が開発した可変機能を持つ
MS、ヘリオンとイナクトだ。

スメラギ

『現れたMSを全て撃墜して頂戴』

4人

『はい！』

返事を返すと、ヘリオンとイナクトがリニアライフルを構え、発砲
してきた。

魁

「うわっ！？」

僕はそれを左右に移動して回避する。

何発かが、命中したりかすつたりしたが、特に痛み等は無かつた。

魁

「避けてるだけじゃ、勝てない！」

右手のライフルモードにしたGNソードを構え、トリガーを引いた。銃口から粒子ビームが放たれ、前方にいたヘリオンを貫き、爆散させた。

魁

「これが…ガンダムの力…よし、行くぞ！」

折り畳まれていた刀身を展開し、敵機に向かつて突進する。

魁

「つおおおおおお…！」

GNソードをイナクトに向けて振り下ろす。するとイナクトは真っ二つになり、爆散した。

魁

「よし、次だ！」

僕はヘリオンとイナクトの群れに向かつていった。

（魁SIDE OUT）

（スメラギSIDE）

アーユー

「凄いですね…あの子達…」

アーユーがモニターを見ながら感想を述べる。

モニターには4つ映像が映し出され、エクシアの魁君はAEUのMSを剣で両断し、デュナメスの健人君はユニオンのフラッグをスナイパーライフルとピストルで撃ち落とし、キュリオスの真由さんは人革連のティエレンをビームサブマシンガンとビームサーべル、更にシールドのクロードとニードルで破壊し、ヴァーチェの拓真君はバズーカとキャノンでヘリオン、フラッグ、ティエレンを爆煙に変える。

スマラギ

「なかなかやるわね…」

フェルト

「スマラギさん。もうすぐ4人共MS部隊を撃破し終わります」

フェルトからの報告が私の耳に入る。

スマラギ

「…終わつたらシミュレーターをARに切り替えて」

その言葉にフェルトだけでなく、ミレイナ、アーユー、リンダ、更に後ろでモニターを見ていたイアンとラッセが驚いた。

イアン

「おいおいーいくらなんでも昨日今日ガンダムマイスターになつた奴らにARはキツすぎないか！？」

スメラギ

「それでもやつて貰うしかないわ。魁君達は自分達の意思でガンダムマイスターになつたんだから。それに…早くしないと“奴ら”が動き出す」

ラッセ

「“奴ら”か…」

その言葉に皆は黙り込み、シミコレー・ショナルームに沈黙が流れる。その中で私はひたすらモニターを見ていた。

→スメラギSIDE OUT→

→ナレーションSIDE→

魁

「こいつでラストオー！」

最後のイナクトをGNソードで両断する。

すると周りの景色が変わり、何処かの海上に変わった。周りには魁のエクシアの他に、デュナメス、キュリオス、ヴァーチエが確認でき、魁はデュナメス達の元へ近寄る。

魁

「皆…なのか？」

拓真

「その声…魁君ですね？」

ヴァーチェからは拓真の声が聞こえる。

健人

「お前はエクシアか…」

真由

「まあ大体分かつてたけどね」

話し合う4人。

そこへスメラギから通信が入った。

スメラギ

『皆、聞こえるかしら？さっきのは個人訓練で無事終了したわ。次はこれと戦つて貰つわよ』

スメラギがそう言つと、魁達の視線の先に赤い光が集まり、その中から赤いボディに背中からは赤いGN粒子を放出する細身で四つ目の機体が現れる。

その機体を魁達は知つていた。

魁

「あれは…アルケー・ガンダム！？」

スメラギ

『このアルケー・ガンダムを4人で協力して撃破して頂戴。撃破したらシミュレーションは終了だから』

スメラギが言い終わると同時に、アルケーが右手に持つた実体剣、GNバスター・ソードで斬り掛かってきた。

魁達はバラバラの方向移動して回避するが、そこからアルケーが加

速し、エクシアにバスター・ソードを叩き付けた。

魁
「ぐあつ！」

健人
「魁！この野郎め！」

吹つ飛ばされる魁。

それを見た健人がスナイパーライフルをアルケーに向け、トリガーを引いた。

だがその一撃をかわしたアルケーのスカートアーマーから8つの金属の牙、GNファングが鋭角的な動きで迫り来る。

健人はシールドを開け、回避体勢に入るが、ファングがデュナメスをかすめ、放たれたビームが命中する。

健人
「うわあああ！」

更にファングはヴァーチェに、襲い掛かり、アルケーはキュリオスにバスター・ソードで斬り掛かる。

拓真

「うわあ！」

真由

「さやあああ！」

機動性の低いヴァーチェの装甲に多数のビームが命中し、キュリオスはシールドでバスター・ソードを受けるが、大きく吹つ飛ばされた。

魁

「ぐ……皆、大丈夫か?」

健人

「当たり前だ……だが流石にアルケーは一筋縄ではいかねえな」

真由

「何か手はないの……?」

拓真

「……あります」

その言葉に皆が拓真を見た。

拓真

「恐らくアルケーにはバラバラに攻撃しても勝ち目はない。だつたら、僕達が協力して闘うしかない」

魁

「……それしかないな」

真由

「だね」

健人

「ああ。拓真、作戦はあるか?」

拓真

「一応はね」

魁達は拓真が考えた作戦を聞き、役割等を話し合つ。

魁

「よし、準備は出来たな？」

3人

『ああ（うん）（大丈夫だよ）』

3人に確認を取る魁。

そして魁達4人はアルケーに向かつていった。
向かつてくる4機のガンダムに、アルケーはファングを射出した。
8つの金属の牙が向かつていく。

拓真

「GNフィールド、最大展開！」

そう言ひと、ヴァーチェから粒子が放出され、粒子の防壁、GNフィールドを開く。

そのフィールドは拓真の直ぐ後ろに控えている魁達も入る程の巨大なものとなり展開される。

そこへファングが襲い掛かった。

ファングから放たれるビーム、更にファング自体が迫り来るが、フィールドがそれを防ぐ。

拓真

「今だ皆！」

拓真が魁達に声を飛ばす。そして魁達はそれぞれの銃器で自分の向いている方向に粒子ビームを放ちまくった。

フィールドを展開した拓真も移動しながらGNバズーカとGNキャノンを放つ。あらゆる方向に放たれる粒子ビーム。

ファングは回避していたが、1つ、また1つと破壊されていき、遂に全て破壊された。

魁

「行くぜ！」

全てのファングが破壊された事を認識した拓真がフィールドを解除し、魁がGNソードを展開してアルケーに弾丸のように向かっていく。

間合いに入り、魁はGNソードを振るつが、バスター・ソードで受け止められる。そこにアルケーは両足のつま先からGNビームサーベルを開幕した。

健人

「やられやが！」

そう言つたのは先程の位置から移動し、頭部をスナイパー・モードにし、スナイパー・ライフルを構えた健人だ。

ロックオンスコープがアルケーの右足をロックする。

健人

「デュナメス！目標を狙い撃つ！！」

トリガーが引かれ、スナイパー・ライフルの銃口から放たれた粒子ビームは、正確に右足を撃ち抜き、爆散させた。

バランスを崩すアルケー。そこで魁は一旦距離を取り、バランスを崩したアルケーに飛行形態のキュリオスが迫る。

真由

「キュリオス！目標へ飛翔するーー！」

そこから変形し、シールドをクローラに変形させ、ニードルを展開する。

真由？

「喰らいやがれええ！」

シールドから展開したニードルをアルケーに突き刺し、クローラで挟み込む。

そのまま強引にアルケーの左足を引きちぎった。

真由？

「拓真あ！続けれーー！」

言い残し、キュリオスがアルケーから離脱する。

両足を失つたアルケーに拓真はGNバズーカを向けた。胸の部分にバズーカを接続し、両側のグリップを掴み、圧縮粒子をチャージしていく。

拓真

「ヴァーチェー！目標を破壊するーー！」

その言葉と共に溜め込まれた圧縮粒子が解放され、極太の粒子ビームが放たれた。

迫る粒子ビームをバスター・ソードを盾にしてアルケーは防ぐが、バスター・ソードは耐えきれず溶解し、アルケーは咄嗟に離脱したが右腕を抉られた。

拓真

「止めだー！魁君ー！」

魁

「任せろー。」

拓真の言葉に答えた魁がボロボロになつたアルケーに突進していく。

魁

「エクシアー！目標を駆逐するーーー！」

そう言つとエクシアは、上昇しながら縦回転斬りを繰り出した。回転の勢いを付けたGNソードがアルケーに向かつて振り下ろされる。縦に切り裂かれたアルケーは身体中からスパークが散り、爆発して赤いGN粒子を散布させた。

それと同時にシミコレーションも終了したのだった。

～シミコレーションルーム～

シミコレーションが終了し、魁達はシミコレーターから出てスマラギの元へ向かった。

スマラギ

「お疲れ様、皆。初めてであそこまで出来るなんて流石ね」

魁

「ありがとうございます」

スメラギ

「突然だけど何か変わった感じはないかしら？」

健人

「そう言われれば…確かに」

拓真

「なんだか…自分なんだけど、自分じゃないような感じがします…」

魁と真由も2人と似たような事を言った。

スメラギ

「それは恐らく、ガンダムの中に居たマイスターの意思が貴方達と融合したからよ」

魁

「マイスターの意思？」

スメラギ

「そう。実はガンダムの中には元のマイスターの意思が宿っていて、貴方達はそれと融合した事により、元のマイスターと同じ能力を手に入れたのよ」

健人

「マジかよ…」

フェルト

「その証拠に、ガンダムを見てみて下さい」

フェルトに言われた通り、4人はそれぞれのガンダムを見る。

するとそれは形が変わつており、魁のは青と白の剣が付いたペンドントに、健人のはモスグリーンのリストバンドに、真由のはオレンジに白のラインが入つた羽根のイヤーカフスに、拓真のは白と黒の腕輪になつていた。

スマラギ

「これでガンダムは貴方達のものになつたわ。だから皆にはコードネームを与えます」

その言葉を聞いた魁達は顔を引き締めた。

スマラギ

「まず健人君。貴方はフェルシオ・ストラトスよ」

フェルシオ

「オーライ。任せとけ」

スマラギ

「次は真由さん。コードネームはアリシア・ハブティズム」

アリシア

「分かりました」

スマラギ

「拓真君。貴方はレイティア・アーデ」

レイティア

「はい、分かりました」

スマラギ

「最後に魁君」

魁

「はい」

スメラギ

「貴方のコードネームは…雷那・F・セイエイよ」

雷那

「了解」

4人はコードネームを「えられ、ガンダムマイスターとなつた。

フェルシオ

「そう言えば俺達が介入する世界つて何処なんだ?」

フェルシオが疑問を口にする。

スメラギ

「それなんだけど実は…」

フェルト

「スメラギさん、GNアーチャーが帰艦しました」

スメラギが何か言いかけた時にフェルトが報告する。

スメラギ

「分かつたわ。パイロットにはブリッジに来るよう伝えて

フェルト

「了解です」

スメラギ

「とりあえずブリッジに移動しましょ。話はそれからよ」

「ブリッジ」

ブリッジには朱色のパイロットスーツを纏い、朱色のピアスをした女性が居た。

？？？

「スメラギさん、偵察任務、終了しました」

スメラギ

「じ」「苦勞様」

？？？

「あの、もしかしてこの子達が…？」

女性が雷那達を見ながら尋ねる。

スメラギ

「ええ。ガンダムマイスターになつた子達よ」

雷那

「雷那・F・セイエイです」

フェルシオ

「フェルシオ・ストラトスだ」

アリシア

「私はアリシア・ハプティズムです」

レイティア

「レイティア・アーティ」と言います」

スマラギの言葉に続くように雷那達が自己紹介をする。

マリー

「私はマリー・パーソナー。よろしくね」

スマラギ

「それで、どうだった?」

スマラギが尋ねると、マリーの表情が真剣なものに移り変わる。

マリー

「やはり“奴ら”は既に私達の行く先に展開していました。一いち
に攻めてくるのも時間の問題だと思います」

スマラギ

「そう…」

アリシア

「あの、奴らってなんですか?」

スマラギ

「貴方達にはまだ言つていなかつたわね

そつ言いながらスメラギが振り返る。

スメラギ

「奴らとはチームトリー＝ティのような組織で既にガンダムを持つて
いる上にMSの部隊まで持つていてる組織よ。奴らはバグ世界を救え
る力を持つていても関わらずバグごと世界を破壊するやり方を基
本としているわ。奴らのせいでざつとつ〇以上のバグ世界が破壊さ
れて来たわ」

レイティア

「そんな… 救えるのに破壊してしまって…」

雷那

「〇〇のトリー＝ティそつくりだな」

スメラギ

「しかも奴らは私達CBのやり方を否定し、私達をも破壊しようと
しているわ。しかも私達の進路上に部隊を展開している。従つて、
私達は最初の世界に行く前に奴らを突破しなきやいけないの。やつ
てくれるかしら?..」

雷那

「当たり前です。こんな所で立ち止まつていてる訳にはいきません」

雷那の言葉にフェルシオ達も頷く。

レイティア

「ところで、結局介入する世界は何処なんですか?」

スメラギ

「…私達が介入する世界…それは……」

スメラギはそれから間をおいて言つた。

スメラギ

「『インフィニット・ストラトス』と『魔法少女リリカルなのは
ストライカーズ』よ」

雷那

「……え？」

4人

『ええええええええええええええええ！－！？？』

ブトレマイオス²改のブリッジに、4人のガンダムマイスターの声
が響き渡つた。

キャラ紹介

名前 木崎魁
(きざき かい)

コードネーム 雷那^{らいな}・F・セイエイ

年齢 15歳

身長 162センチ

体重 49キロ

誕生日 11月27日

見た目 ガンダムシードテスティニーのシン・アスカ

性格 ガンダムOOの刹那とロックオンを足して2で割ったような性格。

だが、刹那の意志と融合した事により、若干刹那の性格の方が強い。好きなガンダムはエクシアやAGE-1等、主人公系の機体。

中3の時に剣道の全国大会で優勝している。

その為、戦闘では剣等を駆使した接近戦を主体として闘う。

機体 ガンダムエクシア

名前 新垣健人

(あらがき けんと)

年齢 16歳

身長 174センチ

体重 54キロ

誕生日 6月1日

見た目 ガンダム〇〇のロックオン・ストラトス（弟）を若干幼くした感じ

性格 ガンダム〇〇のロックオンそのままで、頼れる兄貴分のような性格。動体視力に優れており、クレー射撃の全国大会で優勝している為、射撃を得意とする。好きなガンダムは射撃系。ロックオンの意志と融合した事により、動体視力が更に上がった。

機体 ガンダムデュナメス

名前 西村真由

(にしむら まゆ)

コードネーム アリシア・ハプティズム

年齢 15歳

身長 157センチ

体重 40キロ

誕生日 9月14日

見た目 バカとテストと召喚獣の島田美波

性格 ガンダム〇〇のアレルヤのような性格で、胸はやや大きめ。やや天然ボケな所がある。サバイバルゲームの全国大会で優勝した事があり、身体能力やサバイバル知識は高め。

アレルヤの意志と融合した事により、超兵の力を手に入れ、もうひとつの人格、エリシアが生まれた。

戦闘機に変形するガンダムが好き。（エリシアの人格はハレルヤの女版）

名前 三藤拓真

（みとう たくま）

コードネーム レイティア・アーデ

年齢 15歳

身長 166センチ

体重 51キロ

誕生日 2月26日

見た目 青のエクソシストの奥村雪男

性格 見た目から分かるように、知的な頭脳派。

コンピューター等の扱いにたけ、Excelの全国大会で優勝した過去を持つ。

ティエリアの意志と融合した事により、イノベイドの能力を得た。好きなガンダムは砲撃系。

機体 ガンダム・ヴァーチエ

キャラ紹介（後書き）

感想等、お待ちしています。

機体紹介

ガンダムについて
CBが作り上げた、ISの利点等を取り入れたガンダム。普段は待機状態となっており、使用時はパイロットをGN粒子に変換し、融合する。

武装は量子変換されているものもある。装甲はEカーボンを強化したEカーボンカスタム。（実弾等は殆ど効かず、ビームもある程度までなら耐えられる）

また、ガンダムには各パイロットの意志が宿つており、現在は雷那達と融合している。また、プトレマイオス2改には予備としてオリジナルのGNドライブが1つ積まれている。

機体名 ガンダムエクシア

待機状態 青と白の剣がついたペンダント

動力源 GNドライブ（オリジナルー1）

機体説明

雷那のガンダム。接近戦を重視した機体で、同時に高い機動性能も併せ持つ。

セブンソードを装備したノーマルフレームと、機動性能を重視したR2フレームの二種類のボディがある。また、メイン武装のGNソードは、どちらのボディの時もGNソード改になった。

武装

- ・GNソード改

メイン武装。右腕に装備され、ライトグリーンのクリアパーツを刃に使用した刀身を開いたソードモードと、刀身を折り畳み、銃口を出現させたライフルモードの2つがある。

また、圧縮粒子をチャージする事により、ビームソードを開いたり、バリア等を突き破る事も可能。

- ・GNシールド

左腕に装備。圧縮粒子をチャージして、表面にフィールドを開いて来る。

- ・GNロングブレイド、GNショートブレイド

両腰に装備されている長さの違う実体剣。

粒子を纏って切れ味を高める事が出来る。

- ・GNビームサーベル、GNビームダガー

肩の後ろと、腰背部に装備されている柄。

引き抜くと圧縮粒子の光剣が出現する。

基本的に肩のものをサーベル、腰背部のものをダガーとして使用する。

- ・GNバルカン

両腕に搭載されている粒子ビームを放つバルカン砲。主に牽制として使用される。

特殊能力

- ・オーバーブースト

GNドライブの安全装置を解除し、主に機動性能を上げる機能。だが使用中にドライブに被弾すると、一時的に性能が落ちる。

单一仕様能力

『トランザム』

機体内部の圧縮粒子を完全解放し、機体性能を3倍化させる。発動中は機体が赤色化し、粒子ビームの威力がアップ。更に移動時に自機の幻影を形成する。

最大稼働時間は10分間で、終了後、10分間は機体性能が60%ダウンする。

追加装備

・？？？

機体名 ガンダムデュナメス

待機状態 モスグリーンのリストバンド

動力源 GNドライブ（オリジナルー2）

機体性能

フェルシオのガンダム。

射撃や狙撃性能に特化した機体。

狙撃モードの時はアンテナが下がってスナイパー モードとなる。若干機動性能が低い。

また、デュナメスにはハロも量子変換され、サポートをする。ハロの役割はスナイパー モードの補助。

武装

・GNスナイパーライフル大型の狙撃銃。一撃の威力が高い。

取り回しが少しキツい。

使わないときは右肩にマウンドされる。

- ・GNビームピストル
下腿部に左右1つずつ装備されたピストル。
连射機能が高い。

- ・GNビームサーベル
腰背部のブースターに装備された一本のビームサーベル。

- ・GNミサイル

前のスカートアーマー内部に格納されたミサイル。
1つのポッドに一発ずつ格納され、ポッドは全部で四つある。
命中後は粒子を吹き出し、相手を内部から破壊する。

- ・GNフルシールド

両肩から脚までを覆いつぶすように装備された可変式シールド。
粒子をチャージして防御力を高める事が出来る。

- ・スナイパーモード

头部をスナイパー モードにし、狙撃機能を高める機能。

- 单一仕様能力

- 『トランザム』

- 追加装備

- ・???

機体名 ガンダムキュリオス

待機状態 白のラインが入ったオレンジのイヤーカフス

動力源 GNドライブ『オリジナル3』

機体説明 アリシア（エリシア）のガンダム。

戦闘機形態に変形可能で、機動性能が高い。

防御力が少し低い。

戦闘機形態の時は他のガンダムを乗せて飛行する事も出来る。

武装

- GNビームサブマシンガン

連射性能の高いライフル。戦闘機形態の時は機体下部に装着され、使用する事も出来る。

- GNビームサーベル

腰背部のスカートアーマーに格納された一本のビームサーベル。

- ミサイルユニット

量子変換されている手持ち式の小型のミサイルポッド型武装。両手に1つずつ持つて使用する。

発射されるミサイルはデュナメスのものと同様。

- GNシールド

左腕に装備した細長いシールドで、他のシールドと同じように粒子をチャージして防御力を高める事が可能。先端が変形し、クロードとして使用出来、更にニードルも格納されている。

武装（戦闘機形態）

・GNビームサブマシンガン

・テールユニット

機体の後方に装備されたミサイルで、積まれているミサイルはデュナメスと同じもの。

爆弾も積んでおり、爆撃も可能。

空になつた場合は自動で粒子となつて、収納される。

单一仕様能力

『トランザム』

追加装備

・???

機体名 ガンダムヴァーチュ

待機状態 黒と白の腕輪

動力源 GNドライブ（オリジナルー4）

機体説明

レイティアのガンダム。

火力と防御力に特化した機体で、パワーもピカイチ。その分機動性能がかなり低い。

他のガンダムと比べて粒子の消費が激しい為、GNコンテンサーが各所に取り付けられている。

武装

・GNバズーカ
大型のバズーカ。放たれる粒子ビームの威力は凄まじく、胸部に連結させてバズーカを両手で持ち、極太の圧縮粒子のビームを放つバーストモードを取る事も可能。

・GNキャノン
背部のバックパックの両側に装備されているキャノン砲。威力はバズーカにも劣らない。

・GNビームサーベル
両腕に1つずつ格納されたビームサーベル。

特殊能力

・アーマーパージ

機体の装甲を分離し、内部に隠されているガンダムナドレとなる機能。

分離されたアーマーは粒子になって収納される。
使用した場合、一度機体の展開を解除しなければ再使用出来ない。

单一仕様能力

『トランザム』

追加装備

・???

機体名 ガンダムナドレ

動力源 GNドライブ（オリジナルー4）

機体説明

ヴァーチュエが装甲を分離した姿。

機動性能が格段に上がるが、防御力が下がっている。対象を制御下に置くことが出来る、トライアルシステムが切り札。

武装

- GNキャノン

ヴァーチュエのGNキャノン。両手に持つて使用する。普段は量子交換されている。

- GNビームライフル

粒子ビームを放つビームライフル。

ビームサーベルを展開する事も出来る。

- GNビームサーベル

引き続き、両腕に一つずつ格納されているビームサーベル。

- GNシールド

左腕に装備されているシールド。

粒子をチャージして防御力を高める事が可能。

特殊能力

- トライアルシステム

対象を分析した後、プトレマイオス2改のヴェーダとナドレのシステムをリンクさせ、対象を制御下に置く機能。

ただし、発動中は身動きがとれず、半径50キロ以内にプトレマイオス2改が居なければ使用出来ない。

单一仕様能力

『トランザム』

機体名 GNA-1 チャー

待機状態 朱色のピアス

動力源 GNコンデンサー

機体説明

マリーの機体。一応はガンダムタイプ。

戦闘機形態に変形出来、主に支援等で活躍する。ドライブを搭載していない為、活動時間は有限。

武装

- GNビームライフル
両手のビームライフル。

他のものより口径が広く、広範囲にビームを撃てる。

- GNビームサーベル

腰背部に搭載された一本のビームサーベル。

- GNバルカン

機首の粒子ビームを放つバルカン砲。

- GNミサイル

背部のコントナに搭載されているミサイル。ミサイルはデュナメスやキュリオスと同じもの。

单一仕様能力

『GNブースト』

いわゆるトランザムもどき。機体内部の圧縮粒子を少し開放し、性能を2倍にする。

最大稼働時間は7分。

終了後、7分間は性能が70%にダウンする。

機体紹介（後書き）

感想等、お待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0079z/>

機動戦士ガンダムOO 世界を変えるガンダム

2011年12月17日20時56分発行